

## 「ワンヘルスサマーセミナー」が開催されました



令和5年9月3日(日)、『くじゅう飯田高原ボスコ』において、福岡県主催による「ワンヘルスサマーセミナー」が開催されました。

セミナーには、横倉義武日本医師会名誉会長、藏内勇夫アジア獣医師会連合(FAVA) 会長、蓮澤浩明福岡県医師会会長及び草場治雄福岡県獣医師会会長のほか、福岡県医師会と福岡県獣医師会の皆さんが参加されました。また、海外からは、ジョンソン・チャン世界獣医師会元会長のほか、アジア獣医師会連合 (FAVA) 執行部の皆さんも特別に参加していただきました。



#### 【藏内勇夫会長：開会挨拶】

福岡県医師会の蓮澤会長をはじめ役員の皆さん、福岡県獣医師会の草場会長をはじめ役員の皆さん方、大変お忙しい中に、誠にありがとうございます。

7年前の4月、ここで宿泊をしているときに、九州で大きな地震が発生しました。この柱が大きく揺れて、柱が落ちるかと思いました。立つことができずに、這いながら外に出て、一番安全なのが、駐車場の車の中でした。

この時、多くの日本人が自分だけ逃げて、動物を置き去りにしていた。だから、私は、今日視察していただいた「九州災害時動物救援センター」を作りました。

今日は、ワンヘルスに関しては、見識の高い方ばかりであります。ラファエル会長とマリー専門官に最新の情報を報告いただいて、大いにワンヘルスを共有していきたいと思えます。



#### 【ラファエル世界獣医師会会長】

「医学と獣医学の対話」をテーマに、ワンヘルスの観点による医学と獣医学の関係性を再考するため、過去・現在の例から振り返り、セミナー参加者とともにその将来についての検討が行われました。



#### 【マリーFAO アジア太平洋地域専門官】

「ワンヘルスに向けた協調」をテーマに、人・動物・植物・環境の接触による現在および将来の健康影響を緩和するために必要な変革が、世界、地域、国レベルのセクター横断的なコラボレーションによって、どのように推進されているかについて紹介されました。

#### 【九州災害時動物救護センター】

災害で行き場を失った犬や猫を預かる九州災害時動物救援センター(大分県九重町)は、全国初の常設ペットシェルターで、2016年の熊本地震では、約80匹を受け入れました。

近年、集中豪雨など災害が多発する一方、コロナ禍でペットの飼育は増えています。施設は、一般社団法人九州動物福祉協会(福岡市)が運営し、ピーク時は最大約40匹を保護。